

# 平成27年度佐賀県小・中学校学習状況調査の結果と今後の取り組みについて

小城市立 三里小学校  
平成27年 8月20日

## 調査の趣旨

4月21日に佐賀県小・中学校学習状況調査が実施されました。この学習状況調査の目的と内容はこれまでと同じく、義務教育の質の保証のために学習状況の検証を図り、佐賀県における学校教育の現状や課題を把握した上で、その改善と指導の向上に役立てるために実施されています。教科ごと観点別の出題内容と本校での調査結果の概要、並びに今後の取り組みと、合わせて意識調査の項目から抜粋してお知らせします。

## 第6学年 国語の調査結果について

話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
話の内容に対する聞き方の工夫や聞き方の説明として適切なものを選択する問題では、県の平均よりも下回り大きく努力を要する結果が確認できました。	具体的な事例をもとにして文章を目的に合わせて効果的に書く問題に対しては、県の平均を上回っています。自分の考えを明確にするような文章構成を考える力が身につけているといえます。	表現の工夫を捉えながら読み、文章内容の中心を語や文に注意して適切に読み取る問題に関しては県の平均よりも上回った結果が確認できました。	漢字を正しく読むことや、書くことが求められた問題と文の構成関係の理解では県の平均を上回る正答率が得られました。

### 今後の対応

この結果を踏まえて、話し手の意図を捉えながら聞くことや、自分の立場や意図を明確にして話し合う活動を取り入れた指導を行います。  
また、読解力の向上のために、記述内容を読み取り、書く力をつける。そのために、普段の読む、書く、話す・聞く学習活動と共に、日ごろから文章に慣れ、親しむことを目的に読書を奨励し、読破目標を設定し読書活動の推進を図ります。  
さらに既習の漢字も含めて正しく読み書きができるように、作文指導と合わせて国語の授業とは別に引き続き毎週木曜日、昼の時間に「国語タイム」を計画的に実施していきます。また、家庭での宿題の確実な取り組みも指導をしていきます。

## 第6学年 算数の調査結果について

数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
情報を整理し筋道を立てて考えたり式や言葉で表現する問題での正答率は県とほぼ同等でした。反面、概数を用いて見積もりを判断し記述する設問で努力を要する結果が確認できました。	四則計算や条件に合う時刻を求めたり、四捨五入にて概数で計算する問題では高い正答率でしたが、個人での隔りもありました。 また、分度器の目盛を読み、角の大きさを選択する問題では県正答率と同等でした。	図形の性質やグラフの特徴、見取図や展開図の辺や面の関係を問う問題では高い正答率でした。しかし、平行四辺形の作図の方法を、その図形の性質を基に問う問題の理解は不十分でした。

### 今後の対応

算数科の基礎的な技能を高めるために、引き続き朝の時間でのスキル学習を行います。  
計算領域での基本的な内容の習得が十分でない児童には、特に計算領域の内容を反復させ、基礎をしっかりと仕上げていくことで、基本と応用の両面に対応できる力を育てていきます。  
また、家庭学習とりわけ宿題は、基礎的な内容を着実に習得するための課題であり、学力向上のためには各家庭での取り組みが不可欠であることから家庭への啓発も引き続き行っていきます。

## 第6学年 理科の調査結果について

科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解
植物の成長の規則性や温度による水の状態変化を問う問題では県の平均正答率を上回る結果でした。 反面、電磁石の仕組みと振り子の性質とを関連させた問題では努力を要する結果が確認できました。	メスシリンダーの名称や使い方など、観察や実験のための器具の基本的操作を問う問題では高い正答率で県との正答率比較でも高い結果が確認できました。 しかし、星座の動きを捉えるための記録方法の理解が不十分であることがわかりました。	身の回りにおける自然の事物や現象の観察をとおして生物の特徴を問う問題など、理科に関する基本的な「知識・理解」はおおむね高い正答率で、県平均を上回る結果が得られました。

### 今後の対応

観察や実験を十分に行わせるとともに、既習事項でも関連する学習で繰り返し指導することで知識の定着を図ります。  
技能を身につける学習では、観察や実験に用いる器具の使用法などを繰り返し指導するようにします。  
また、正答率が低い領域については、授業をとおして補充的な学習指導も行います。

## 第5学年 国語の調査結果について

話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
適切な言葉遣いや、問の取り方に注意して話したり、わからない点や質問したりすることを問う内容の中で、話の内容を適切に説明しているものを選択する問題に理解不足が見られました。	「書くこと」の設問では、相手や目的に応じて文を構成したり、書こうとすることの中心を考えて書く問題で県平均を下回り、努力を要する理解の度合いであることが確認できました。	「読むこと」に関しては、全6問のうち、場面と場面や段落相互を関連付けて読む問題や内容の中心となる大事な事柄を読み取り記述解答する設問など3問で県平均を下回りました。	「言語事項」は漢字を正しく読むことや、書くことと、ローマ字の読み書きや慣用句、修飾語について出題されました。今回の出題での漢字の読みと書きについては高い正答率が得られました。

### 今後の対応

「言語事項」では漢字を正しく読むことや、書くことの知識理解が求められ高い正答率が得られました。この結果を踏まえて、既習の漢字も含めて正しく読み書きができるように、今後とも作文指導と合わせて、国語の授業とは別に引き続き毎週木曜日に特設の時間を設けて習熟を行います。  
書かれている内容を読み取り記述する力をつけるために、読むことや、書くこととの指導をとおして知識理解を高める学習活動の定着を図る必要が判りました。普段の読む、書く、話す・聞く学習活動と共に、日ごろから文章に慣れ、ふれる学習習慣の定着を図るための指導として読書活動の推進を図ります。  
また、家庭での宿題の確実な取り組みも必要ですので、習慣化に向けて指導を継続して行います。

## 第5学年 算数の調査結果について

数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
数量の変わり方のきまりや、解決方法や判断した理由を記述により説明する問題で努力を要する理解度合いであることが確認できました。	四則計算やグラフの変化を読み取りを求める設問ではいずれも高い正答率で県平均を上回りました。しかし、小数のかけ算に関する正答率は下回る結果となりました。	ものの位置の表し方や図形の展開図を組み立てたときの面や辺の関係を求める設問に対して県平均を上回るとともに高い正答率でした。

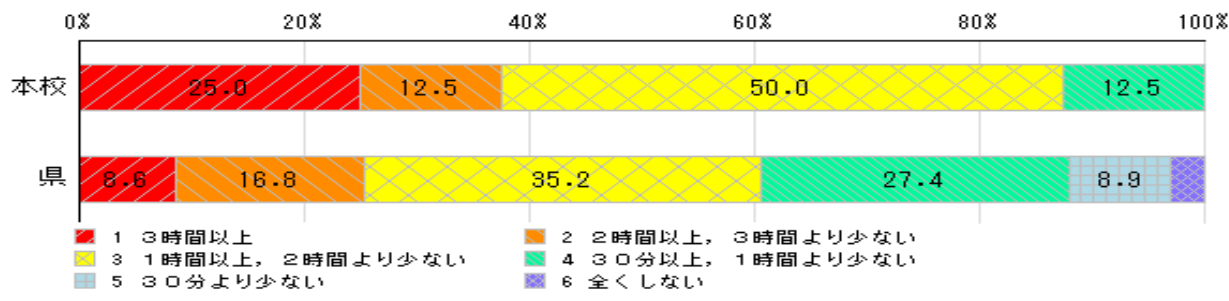
### 今後の対応

基礎的な知識の習得とともに、思考力を高める学習指導を行います。  
今の学年で身に付ける必要がある基礎的な知識の習得と合わせて、既習内容について授業の中で反復して学習し理解が確実なものになるようにします。そのために、学年の単元ごとや、既習内容でも理解不足な部分も合わせて補充指導を計画します。  
算数科での基礎的な技能を高めるために、引き続き朝の時間でのスキルタイムを行います。  
さらに、家庭学習とりわけ宿題は基礎的な内容を習得し学力向上に役立てていきます。

# 生活環境や学習習慣に関する意識調査について

## 〈学習習慣について〉 第5学年

(6)学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。)

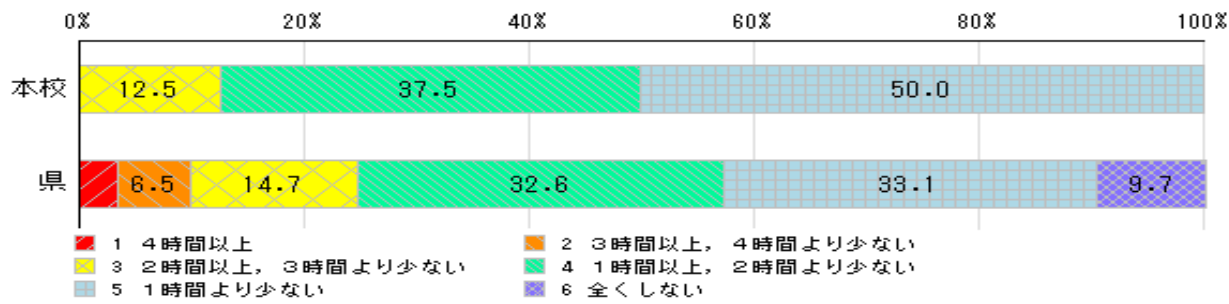


授業の予習や復習をするという児童の割合は、県平均より上回っています。休みの日には「家庭学習が1時間以上」という児童の割合が半数でした。

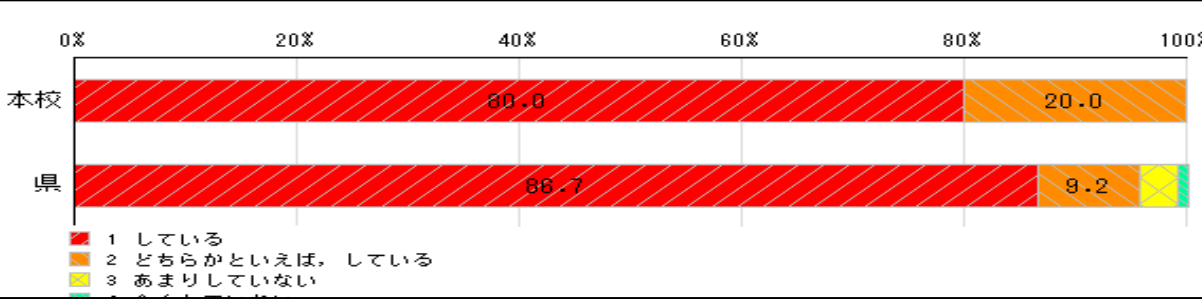
家庭学習の定着と基本的な学習習慣の確立のために、それぞれ、家庭と児童に配布した「家庭学習の十か条」の活用を継続して行います。

家庭学習とりわけ宿題は、基礎的な内容を着実に習得するための学習課題と捉え、学力向上のためには各家庭での取り組みが不可欠なことから、その必要性について保護者への説明と協力を重ねて依頼します。合わせて、「テレビ・ゲーム・メールしない運動」を育友会とも連携して行っています。

(7)土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。)



## 〈生活習慣について〉 第6学年

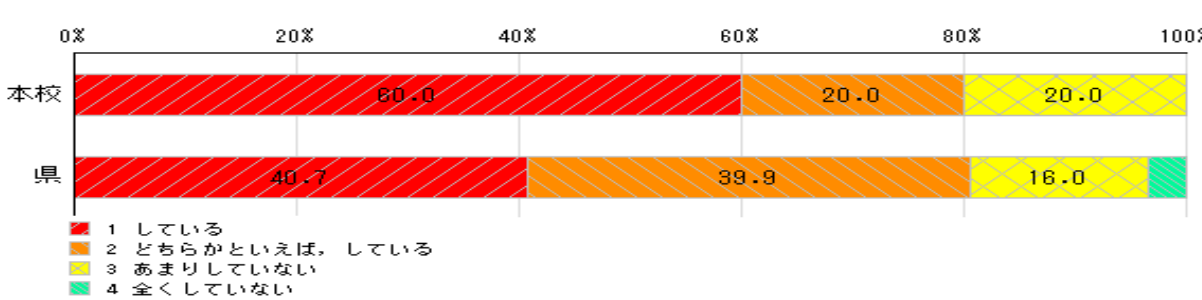


児童全員が「朝ごはんを毎日(含:どちらかといえば)食べている」ことが分かりました。

しかし、望ましい就寝時間の定着については個人による隔たりも確認できました。

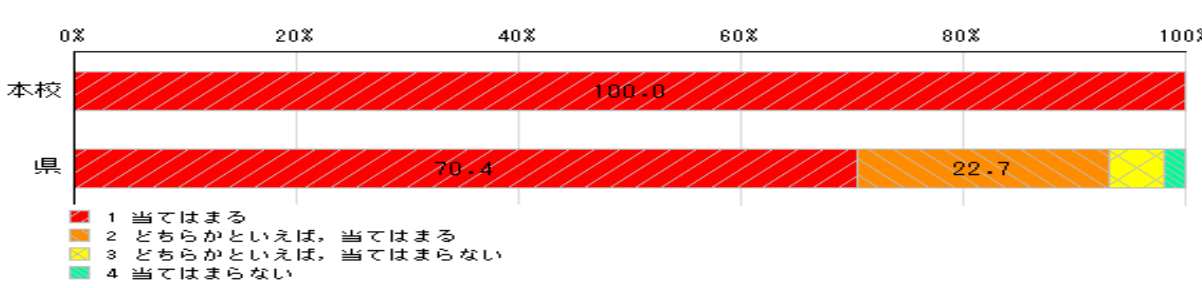
このことから「早寝・早起き・朝ごはん」や「家庭学習の定着」など、よりよい生活習慣を身につけるために「家庭教育指針ふり返りカード」による生活習慣の改善に向けた取り組みを家庭と連携して行います。

(2)毎日、同じくらいの時刻に寝ている



## 〈いじめについて〉 第6学年

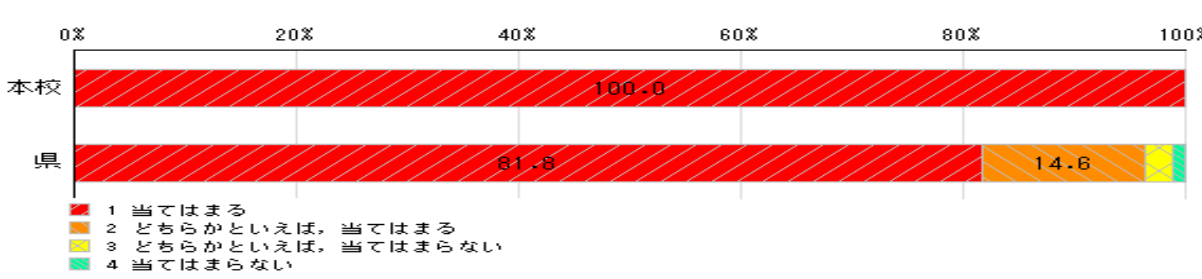
(33)人の気持ちが分かる人間になりたいと思う



すべての児童が「いじめは、どんな理由があってもいけない」と考えていることが確認できました。また、一人ひとりを大切に思う心が育っていることもわかりました。

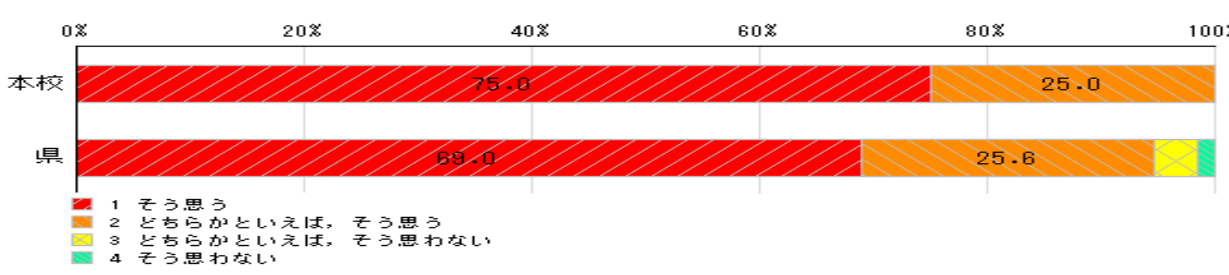
今後も継続して、毎月10日には小城市が定めた「いじめ防止心を考える日」で「心育て」の取り組みを行っていきます。また、全教育活動を通じた道徳教育を推進します。

(34)いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う



## 〈自分を見つめる心について〉 第6学年

(4)人の役に立つ人間になりたいと思う。



「将来の夢や目標をもっている」という意識は、すべての児童が当てはまると回答しました。

今後も自分の役割や責任を果たすことで、人のために役立つ喜びが実感できるように、委員会活動や学校行事での活動を通して自己肯定感や自尊感情を高めていきます。

(5)将来の夢や目標をもっている。

